

世の中が便利になればなるほど

昨日付けのメッセージは、修学旅行から帰ってきてパソコンに入力しました。しかし、文章のほとんどは、宿泊先のホテルで書きききました。その時、私はあるジョッキンクなことに気付きました。

私は毎日このメッセージを書いていますが、一つのメッセージを書き終えるまでに、早い時は約十分、遅い時には四十分ぐらいかかります。平均すると、二、三十分といったところでしょう。書くことと、思ってから題材を探すことはまずありませんので、文章を完成させるまでの時間としては、読む人が思うほど長くはかかっていません。しかし、一昨日はそういうわけにはいきませんでした。旅先にはパソコンがありません。ホテルの部屋で、私はペンを執って直接紙に向かいました。ネタは決まっていますので、「十五分もあれば書けるかな」と思っていたところ、実際に要した時間は一時間近く！私は愕然（がくぜん）としました。

パソコンに疎い私にも、すっかりキーボードを打つことの便利さが染みついてしまっていることに気付きました。キーボードを使って入力することの便利さにどっぷり浸かった生活を送っていることを思い知らされたのです。

パソコンを使えば、文字の変換はもちろんのこと、削除や付け加えなどが容易にできます。読み返さなくても、文法上の間違いを傍線などで教えてくれます。段落の順序を替える時も、紙面ではその部分を囲って矢印で示さなければならぬ紙面と大違い。切り取って貼り付けるだけで済んでしまいます。便利だからこそ、ついついペンと紙よりも、キーボードと画面に向かってしまいます。

「それは当然だ」と思う人も多いかもしれませんが、しかし、私はそう思いませんでした。担任時代には、黒板の端から端までチョークで文章を綴ることができた自分ではないことに大きなショックを受けたのです。

「老い」というより、「退化」だと私は感じました。題材もすぐに見つかりやすく、キーボードを前にすればどんどん文章ができ上がっていくきます。しかし、ペンを持つとそれができません。以前できていたことができなくなっている……これは私にとってゆゆしきことでした。

世の中が便利になればなるほど、手間と時間がかかる昔のやり方は敬遠されていきます。パソコンやタブレットはその最たるものだと言えます。今年度タブレットが一人一台貸与されたことで、今後ますます学習が大きく変わっていくことでしょう。それにぜひ乗り遅れないでほしいと同時に、面倒くさいが先行する以前のやり方も大切にしたいと思っています。漢字の変換はできるが、その漢字は書くことはできない。プレゼンは作成できるが、人前で語ることはできない。……そんなふうにならないように、バランスよく両方に取り組んでください。ね。

(十一月二十四日記)